



# 世界の風 from Sweden —スウェーデン—

## 第4回 高校選びは高校フェスタから



会場にはさまざまなコースのブースがありました

みなさん、こんにちは！ スウェーデンで教員をしているサリネンです。スウェーデンは、暗黒の季節に突入し、長く寒い冬になりました。冬の足音が聞こえる頃になると、9年生(中学3年生)の生徒たちは高校選びを始めます。その皮切りが「高校フェスタ」。私も生徒たちを連れて、特別支援学校の「高校フェスタ」に行ってきました。

会場は、ストックホルム中心の高校と支援学校の高等部が併設している「Frysuset」という学校の体育館です。今年は新型コロナウイルス禍終了後、初めての大きな支援学校の高校フェスタとなり、30校以上が参加しました。ストックホルム市内の公立の学校に加えて、近郊のさまざまな基礎自治体の学校も参加し、会場は大賑わいでした。スウェーデンの支援学校の高校は10コースあり、4年間学ぶことができます。どのコースに通うかを選ぶことは簡単ではないので、各学校の先生や通っている



サリネンれい子  
特別支援学校教員  
スウェーデン在住

生徒の話聞くことができるこの機会は貴重です。フェスタは保護者も訪れることができます。生徒たちは興味津々。最初に話を聞いた2校には、昨年度卒業生が通っているの、彼らの話で盛り上がりました。レストランとベーカリーコースでは、手作りのお菓子をもらって大喜び。芸術コースでは試しに絵を描きました。他にも動物や植物のコースや、医療保育福祉系のコースなども熱心に見ていました。フェスタの後は、興味がある学校のオープンハウスデーに参加したり、1〜3日ほどの実習日に参加したりして、2月の高校申し込みまでに行きたい支援学校のコースを選びます。

\* スウェーデンでは2022年2月にコロナ禍が収束したとされています

全障研の新作  
障害者問題研究 50巻3号  
特集  
障害者の防災・  
災害福祉の到達点  
障害者問題研究編集委員会 編

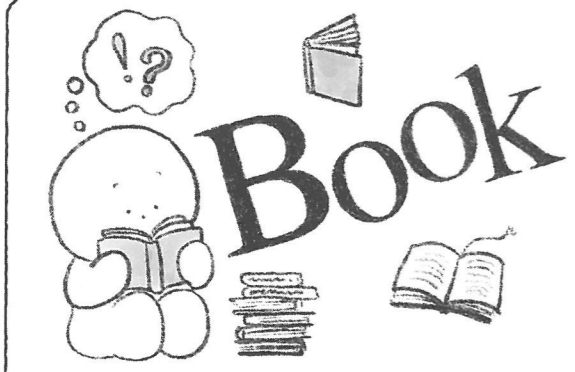
定価2750円

必ず起こる東南海地震。地球温暖化によって多発する水害。その時、私たちはどうしたらよいのでしょうか。政策としては地域福祉に災害福祉が位置づけられ、防災・減災のための計画づくりや地域連携を求めています。改定災害対策基本法や災害時要援護者の避難支援ガイドラインに目配りし、自治体や地域コミュニティで障害児者が取り残されないとくみが必要で、障害のある人が隅に追いやられることなく、「助けてやる」と無理やり引き回されるのでもなく、社会の成員として尊重され、いのちを守り暮らしの継続が図られる営みに「発達と権利」が貫かれる、そんな災害福祉をつくりあげるために、まずは、この到達から学びたいと思います。不十分な条件下で障害のある人の命を一身に負わざるを得ない家族や現場の経験(新型コロナ禍のもと現に進行中の経験に通います)やねがいを、しっかり形にしなければなりません。

### 編集後記

**長** 野県で生まれ育った私は冬が好きです。11月頃からの外のひんやりした空気とともに感じる冬の匂いを体いっぱい吸いたくなります。今号で挙がった絵本はどれも冬が味わえるすてきな作品です。今冬も、あったかい部屋の中でおでんや雪を思い浮かべながら子どもと読みたいと思います。さて一方で、わが家にいるのは極度の寒がりの夫。今日も暖房の温度をめぐって…バトルが始まります！ (芝崎)

**雪** が積もる日は年に一回あるかないか。あまり雪の降らないところで育ちました。小学校では誰かが「雪だ!」と気づいたら授業は一旦中断。雪が積もれば急ぎょ運動場に出て雪あそび。大概すぐに溶けてしまうのですが、雪がある日はうれしくて必ず雪(ほぼ水と泥)合戦をしていた記憶があります。今でも雪が積もったら雪だるまを作ること、雪玉を投げることは必須にしています。(小針)



医療・福祉・教育・社会につながる  
スウェーデンの多様な学校  
各章ごとに例が挙げられ、専門機関や専門職との多職種連携についてくわしく書かれています。スウェーデンという国に興味を湧き「このとりくみになる」「日本にもあればいいな」と、医療や教育や福祉についてもっと知りたくなります。子ども一人の人間として尊重され、支援や関わりが考えられていることが印象に残る一冊です。

かろがわ出版  
定価1980円

サリネンれい子 著

**長** 野県出身の私は、寒さに対する耐性があつた。陸上競技にいそんでいた中高生の時は、氷点下だろうが、雪が降ろうが、お構いなしに野山を駆け回っていた。でも、社会人となり、雪がほとんど降らない地域で暮らすようになると、一気に寒さへの耐性がなくなり、厚手をしないと外を歩くことができなくなった。人間は自分が置かれた環境に即して変化してしまう。自分の置かれている環境に敏感でありたい。(塚田)

**私** は夏よりも冬が好きです。冬の朝の澄んだ空気が気持ちよくて、「寒〜い!」と言いながら早朝散歩をしたくなります。幼稚部を担当していた頃は毎日外遊びをするなかで「水が氷みたい」「こすれこすれしよう」「葉っぱがなくなっちゃった!」とかげが土のお布団で寝てるよ」と、子どもたちの気づきから「冬がやって来たなあ、何して遊ぼう」と教えてもらっていたように感じます。(鈴木)

次号予告 2月号  
[特集] 映像作品と障害者(仮)  
■私の大好きな作品たち  
LiLiCo (映画コメンテーター)

みんなのねがい  
1月号(第684号)  
定価715円(本体650円・税65円)  
2023年1月1日発行

編集責任者 塚田直也  
発行人 越野和之  
発行 全国障害者問題研究会出版部  
東京都新宿区西早稲田2-15-10  
西早稲田関口ビル4階  
電話 03-52685-2601  
FAX 03-52685-2603  
●全障研出版部 振替口座(郵便局)  
00100-21136906

印刷所 (株) 光陽メディア  
本誌購読について  
・個人で年間購読  
出版部より郵送でお届けします。  
年間9400円。  
・書店やオンラインで申し込み  
毎月(16日発売)お店で受け取る事が  
できます。  
雑誌コード「08441」